

電子入札サービス

ICカードを利用しない事業者向け
Java ポリシー設定マニュアル
(Windows 7(64BIT)／Windows 8.1(64BIT)用)

平成31年1月

目次

第1章	はじめに	1
1.1	電子入札システムを使用するまでの流れ	1
第2章	Java ポリシーを設定する前に	2
2.1	前提条件の確認	2
第3章	Java のバージョンについて	5
3.1	Java バージョン確認方法	5
3.2	Java のアンインストール (ケース②の場合)	8
第4章	Java のインストール (ケース①②の場合)	11
4.1	Java のインストール	11
第5章	Java ポリシーの設定	13
5.1	Java ポリシー設定ツールのダウンロードと解凍	13
5.2	Java ポリシーの設定	15
補足1	ユーザーアカウント制御機能の無効化	19
第6章	Java の設定	25
6.1	Java 環境の設定	25
6.2	例外サイト・リストの設定	30
補足2	Internet Explorer の設定	35

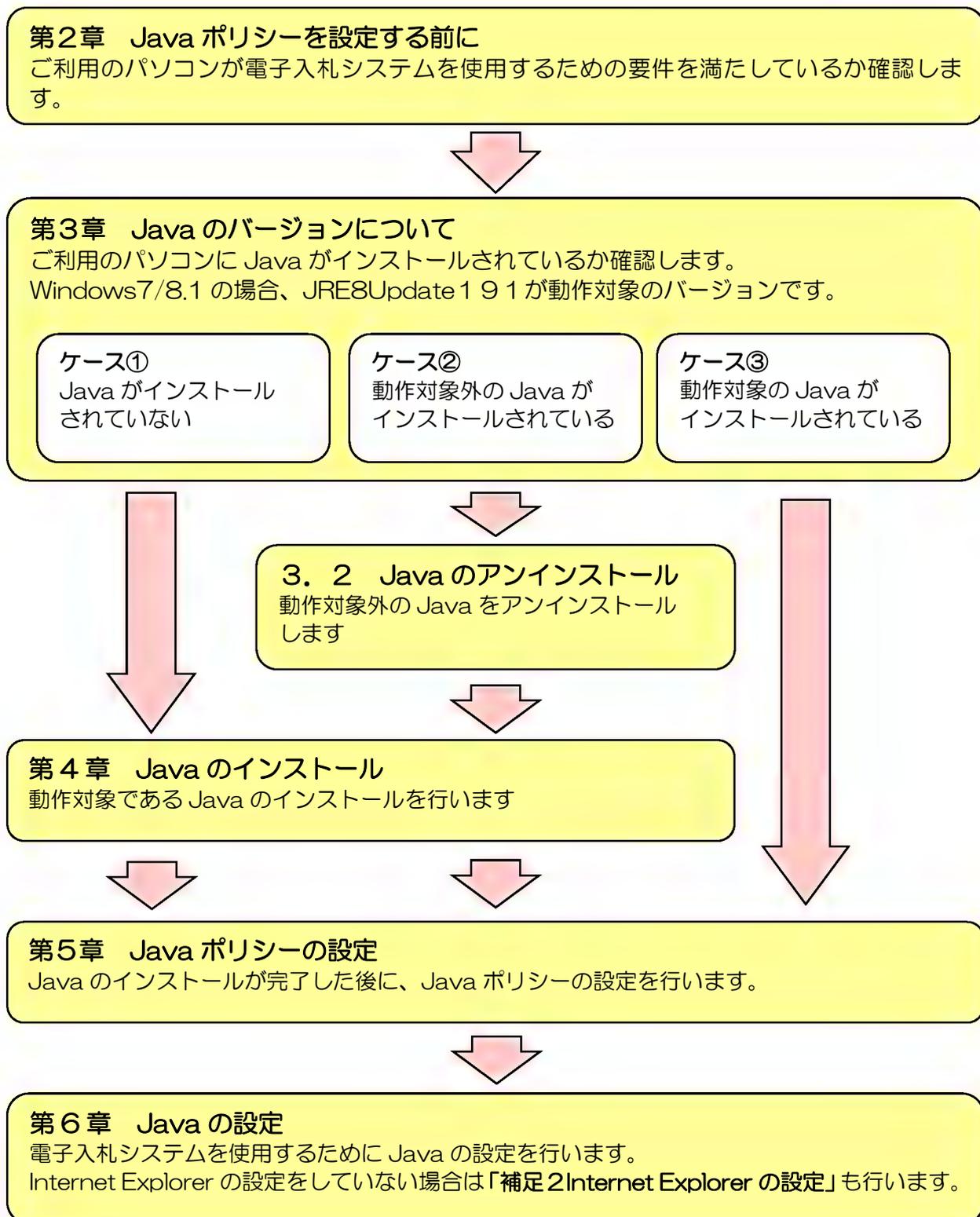
第1章 はじめに

本マニュアルは、ICカードを利用しないID・パスワード方式のみで電子入札システムを使用する方が対象となります。

電子入札システムを使用するためには、ご利用になるパソコンにJava ランタイム (JRE) (以下、Java) をインストールし、Java ポリシーと呼ばれる設定を行う必要があります。

1. 1 電子入札システムを使用するまでの流れ

以下の流れで設定します。



第2章 Java ポリシーを設定する前に

2.1 前提条件の確認

少額物品システムは、インターネットが利用可能で、『表2.1 動作環境』に示した要件を満たす環境でご利用できます。

表2.1 動作推奨環境

項目	要件
CPU	OSの種類により要件が異なります。 ①Windows7の場合 Core 2 Duo 1.0GHz 同等以上推奨 ②Windows 8.1 Intel Core i5 3.1GHz 同等以上推奨
メモリ	OSの種類により要件が異なります。 ①Windows7の場合 1.0GB 以上推奨 ②Windows8.1 2.0GB 以上推奨
ディスク	1 ドライブの空きが1 GB 以上
OS	以下の何れかの OS であること。 ② Windows 7 Home Premium/ Professional SP1 (64bit 版) ②Windows8.1 エディションなし、Pro (64bit 版)
ブラウザ	Windows 7/ Windows8.1 Internet Explorer 11 ※Internet Explorer は 32 bit 版をご利用ください。 ※Windows 8.1 はデスクトップ版の Internet Explorer のみサポート対象となります。 ※Internet Explorer 以外のブラウザ(Chrome、Firefox 等)には対応しておりません。

ブラウザのバージョンは次の手順で確認できます。

• Windows7 の場合

(1) Internet Explorer を立ち上げ、[ヘルプ]メニュー→[バージョン情報]を選択します。

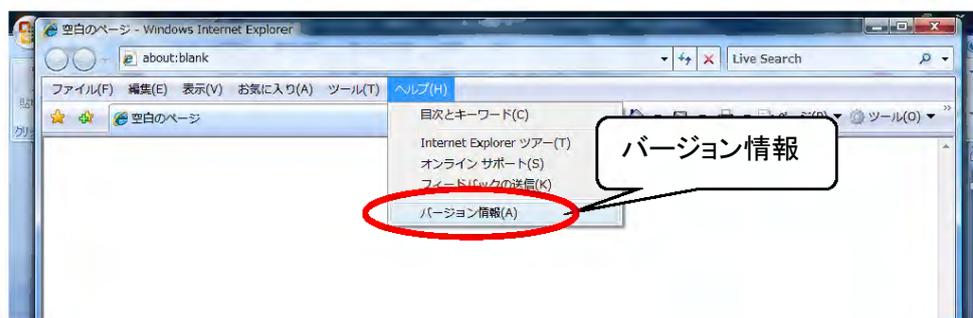


図2.1-1 Internet Explorer のバージョン確認

(2) 「Internet Explorer バージョン情報」のバージョン情報を確認します。



図2.1-2 Internet Explorer のバージョン情報確認画面

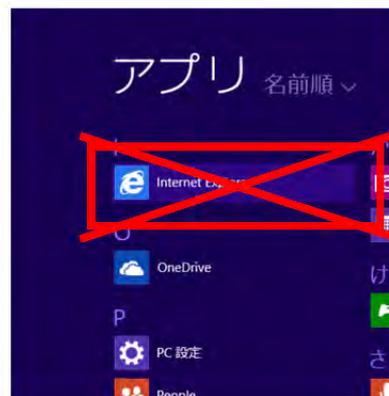
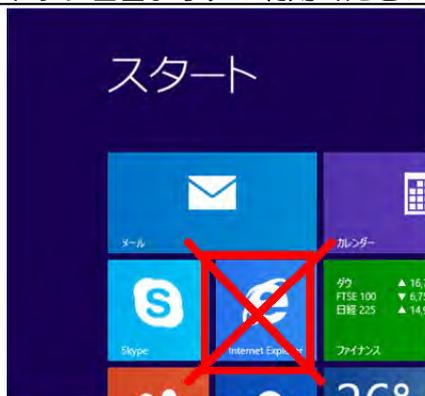
• Windows 8.1 の場合

(1) デスクトップのタスクバーより Internet Explorer を立ち上げます。



図2.1-3 デスクトップ画面

※スタート画面およびアプリ画面の「Internet Explorer」はご利用になれません。必ずデスクトップ画面より、ご利用ください。



(2) [ヘルプ]メニュー→[バージョン情報]を選択します。

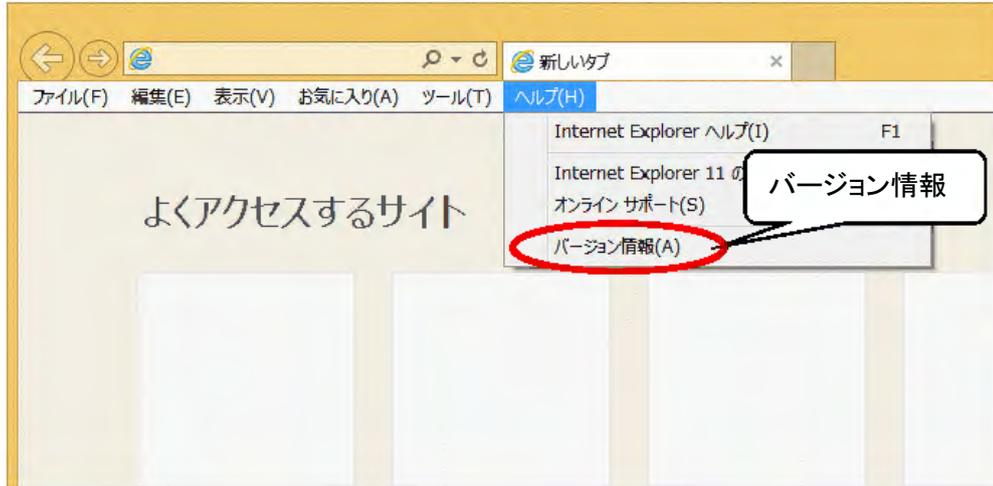


図2.1-4 Internet Explorer のバージョン確認

(3) 「Internet Explorer バージョン情報」のバージョン情報を確認します。



図2.1-5 Internet Explorer のバージョン情報確認画面

第3章 Java のバージョンについて

3.1 Java バージョンの確認方法

ご使用になるパソコンに、Java がインストールされているか確認します。
インストールされている場合は、インストールされている Java のバージョンを確認してください。

ご使用になるパソコンの java のバージョンは、次の手順で確認できます。

(1) スタートメニューより「コントロールパネル」を開きます。

• Windows7 の場合



• Windows 8.1 の場合

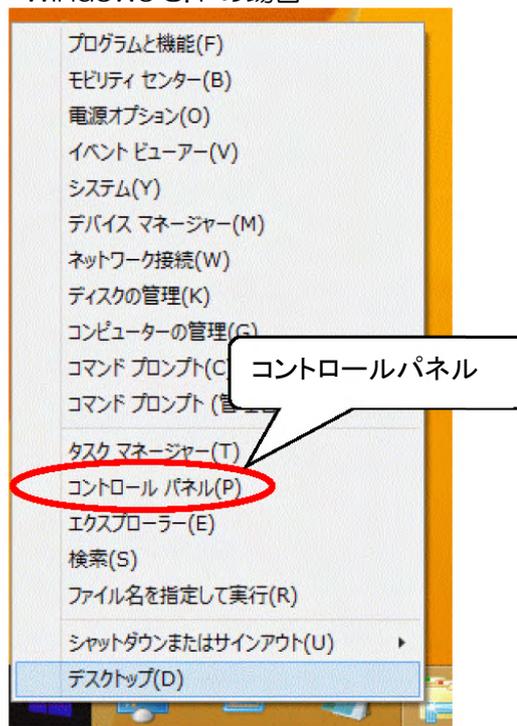


図3.1-1 コントロールパネルの表示

(2) 「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に変更します。

- Java のアイコンが表示されない場合 ⇒Java がインストールされておられません
第4章を参照の上、Java のインストールを行います
- Java のアイコンが表示される場合 ⇒Java のアイコンをクリックします。
下記手順にてバージョンを確認してください

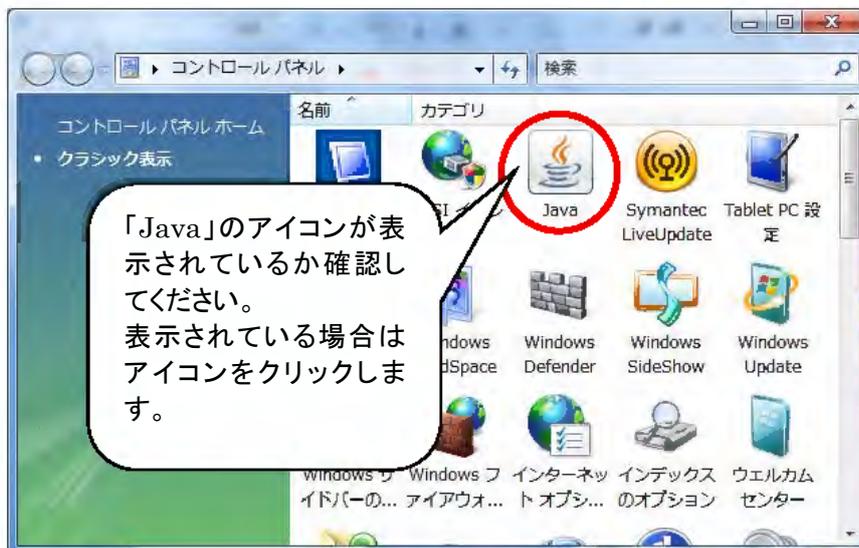


図 3.1-2 Java のバージョン情報確認画面④

(3) 『図 3.1-3 Java コントロールパネル』で「バージョン情報」をクリックしてください。

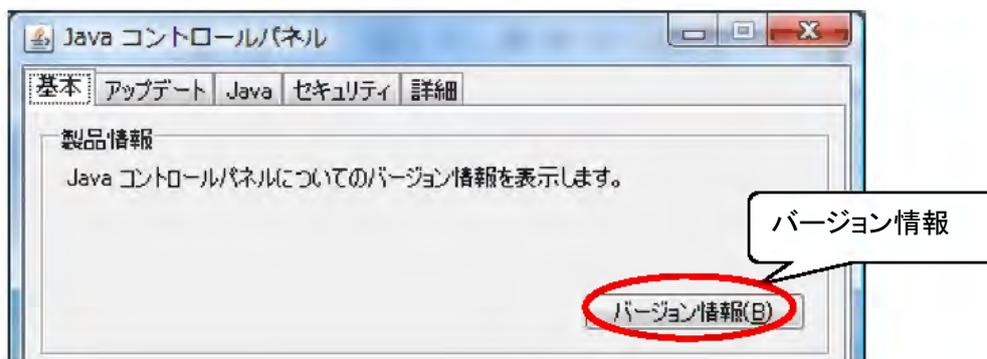


図 3.1-3 Java コントロールパネル

- (4) 『図 3.1-4 Java について』で
Java のバージョンを確認することができます。



図3.1-4 Java について

※注 画面イメージは、OS 等により若干表示が異なる場合があります。
下のケースごとに次の章へ進んでください

- ケース① Java がインストールされていない場合 ⇒第4章へ
- ケース② 動作対象外の Java がインストールされている場合 ⇒3.2 へ
- ケース③ 動作対象 (※) の Java がインストールされている場合 ⇒第5章へ
(※) JRE8Update191

3. 2 Java のアンインストール（ケース②の場合）

注意

この作業は、電子入札システムが対応していないバージョンの Java がインストールされている場合、競合を避ける為に削除して頂くものです。

現在インストールされている Java を他のシステムで使用している場合は影響を及ぼす可能性があります。

削除作業はご自身の責任で行ってください。削除作業を起因とする誤作動・不具合やそれらに限らない損害および障害は、一切その責任は負いかねますので、ご了承ください。

Java を削除できない場合は、別のパソコンで電子入札を行ってください。

(1) スタートメニューより「コントロールパネル」を開きます。

• Windows7 の場合



• Windows 8.1 の場合

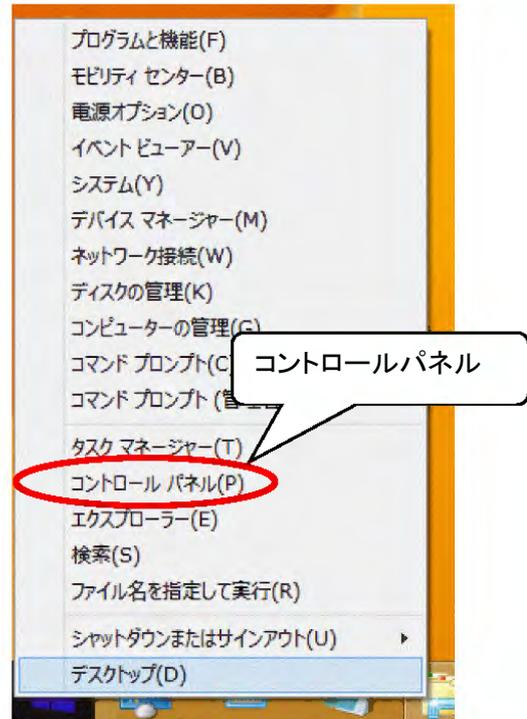


図3.2-1 コントロールパネルの表示

(2) 『図 3.2-2-1 「コントロールパネル」画面①』または『図 3.2-2-2 「コントロールパネル」画面②』で、「プログラムと機能」メニューをダブルクリックすると、『図 3.2-3 プログラムと機能①』が表示されます。

●[表示]メニュー-[詳細]表示の場合

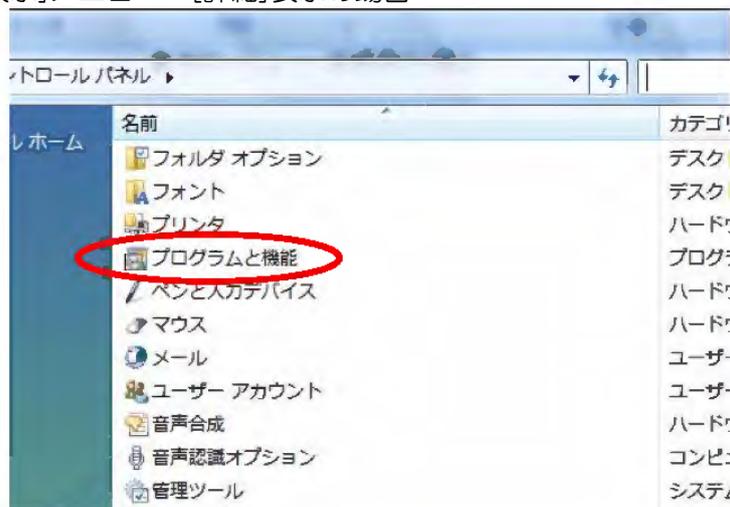


図 3.2-2-1 「コントロールパネル」画面①

●[表示]メニュー-[中アイコン]表示の場合

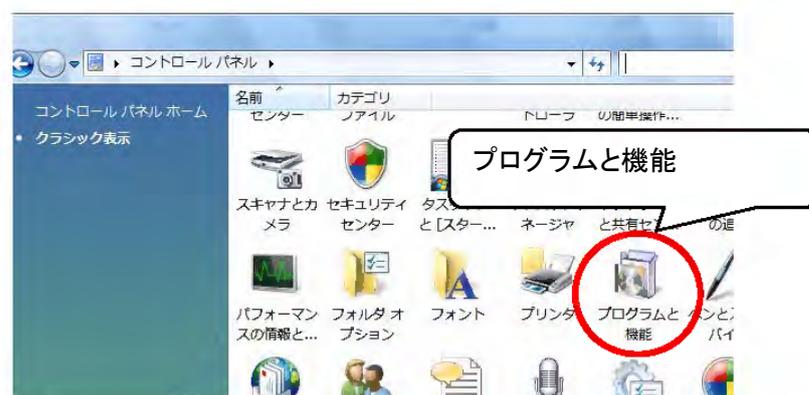


図 3.2-2-2 「コントロールパネル」画面②

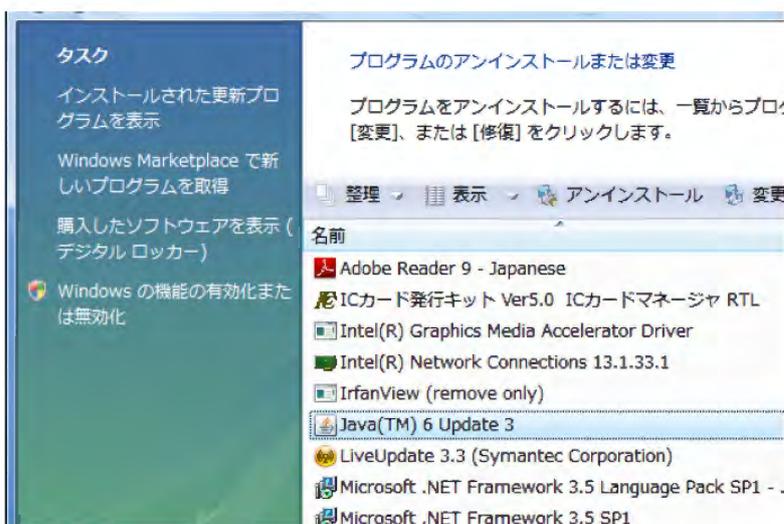


図 3.2-3 プログラムと機能①

- (3) 『図 3.2-3 プログラムと機能①』をスクロールし、アンインストールする不要な Java バージョンのプログラムを選択します。アンインストールする場合は、「アンインストール」を押下します。

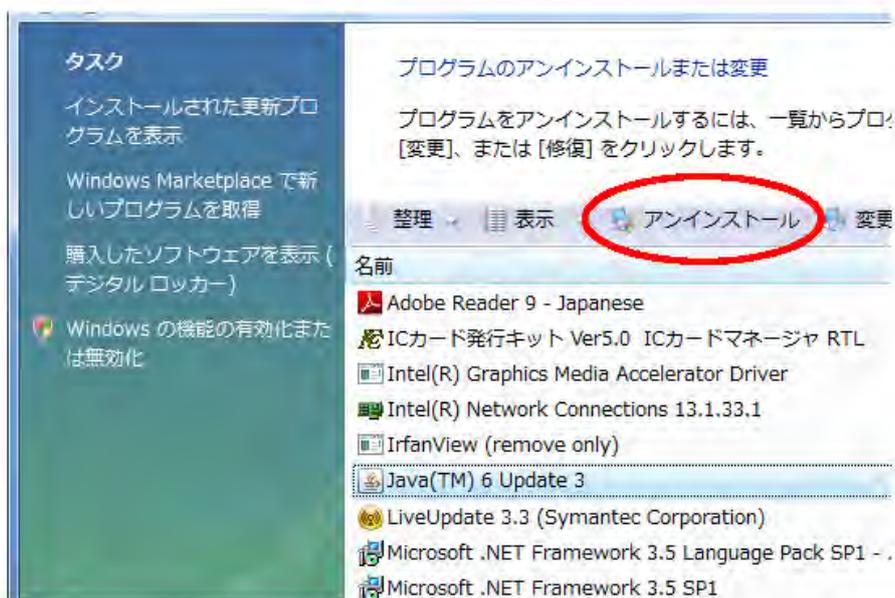


図 3.2-4 プログラムと機能②

- (4) 『図 3.2-5 プログラムと機能③』画面で、「はい」ボタンを押すと、プログラムのアンインストールが始まります。

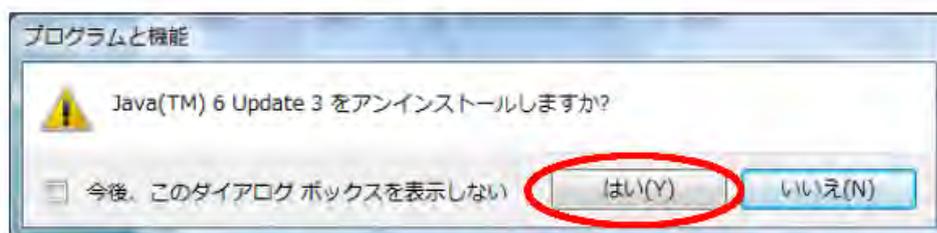


図 3.2-5 プログラムと機能③

- (5) 画面が閉じると、プログラムのアンインストールは終了です。
- (6) 複数の不要な Java バージョンが存在する場合には、同様の手順でプログラムのアンインストールを繰り返して下さい。終わりましたら「プログラムと機能」画面、右上の「×」ボタンで画面を閉じて下さい。
- (7) 不要な Java バージョンのアンインストールが終了しましたら、パソコンを再起動して、第 4 章へお進みください。

第4章 Java 実行環境の設定（ケース①②の場合）

4.1 Java のインストール

ご使用になるパソコンに Java がインストールされていない場合には、Java をインストールする必要があります。

※下記の操作は「管理者」権限のあるユーザにて行ってください

- (1) JRE をダウンロードしてデスクトップ等に保存してください。
保存した JRE のインストールファイルをダブルクリックしてください。
※JRE のダウンロード方法については、発注機関のホームページを参照してください。
- (2) 以下の画面が表示されます。使用許諾契約書をご確認のうえ、「インストール」をクリックしてください。

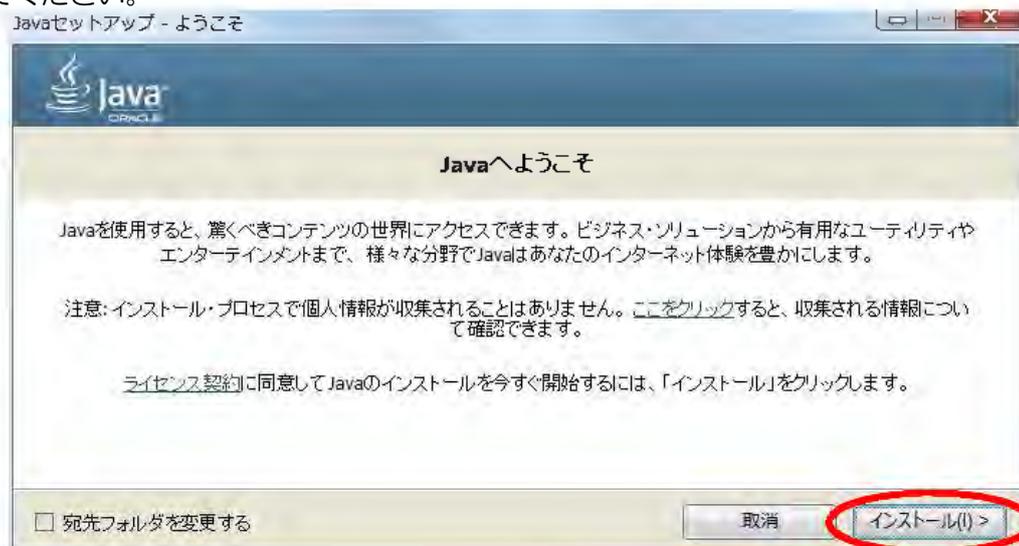


図4.1.1-1 Java インストール画面①

- (2) 以下の画面が表示されます。この画面の表示中は、パソコンの操作は行わないようにしてください。



図4.1.1-2 Java インストール画面②

(4) 以下の画面が表示されます。『閉じる』ボタンをクリックし、Java 実行環境の導入は完了です。

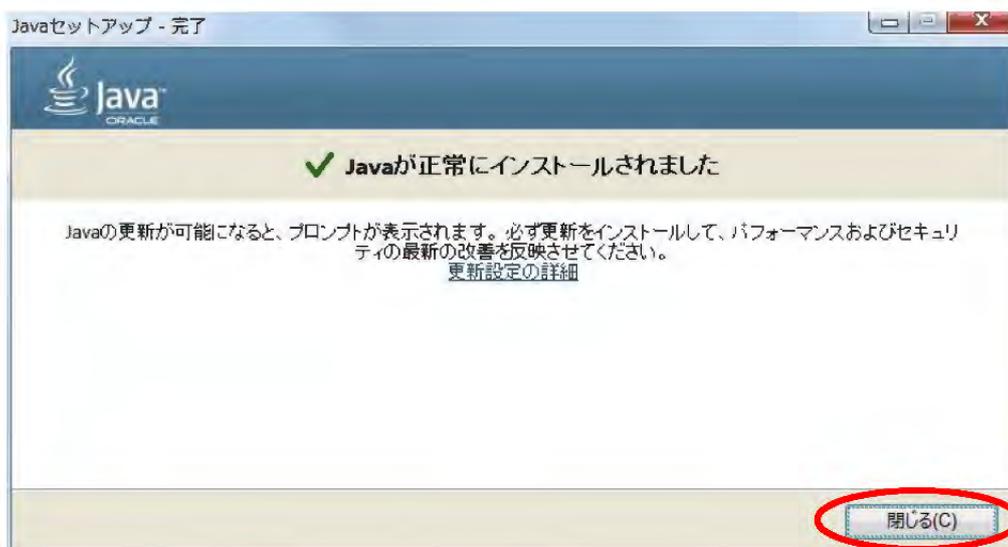


図4.1.1-3 Java インストール画面③

※注 各画面は、OS 等により若干表示が異なる場合があります。

Java のインストール後に以下の画面が表示された場合は、「×」ボタンで閉じてください。



図4.1.1-4 Java のバージョンの確認画面

第5章 Java ポリシーの設定

5.1 Java ポリシー設定ツールのダウンロードと解凍

Java のインストールが終了致しましたら、電子入札システムポータルサイトより Java ポリシー設定ツールをダウンロードします。Java ポリシー設定ツールは、OS のバージョンによって異なります。適切なものをダウンロードしてください。

- (1) 電子入札システムポータルサイトから Java ポリシー設定ツールをダウンロードすると「図 5.1-1 Java 実行画面①」が立ち上がります。「実行」ボタンを押下してください。

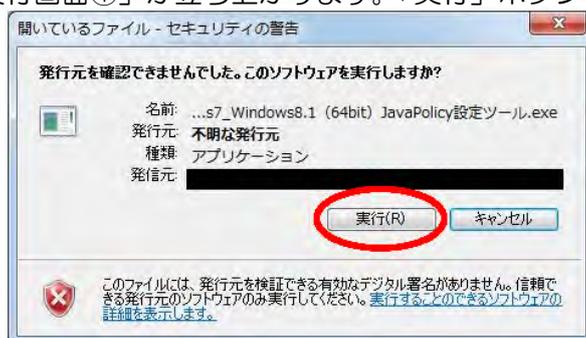


図5.1-1 Java 実行画面①

- (2) 信頼済みサイトに電子入札システムのホームページを登録していない場合、以下の「図 5.1-2 Java 実行画面②」が表示されるので、「実行する」ボタンを押下します。

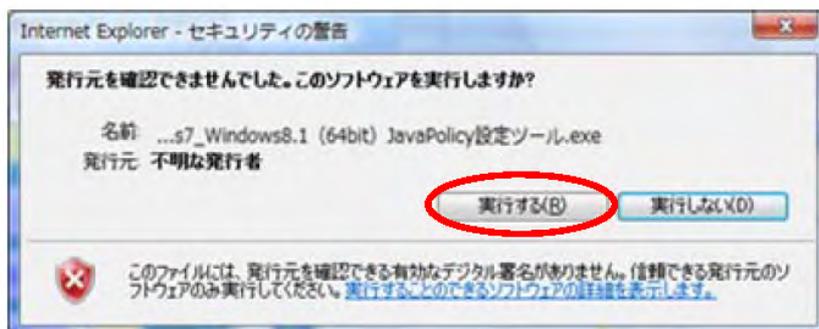


図5.1-2 Java 実行画面②

- (3) 「図 5.1-3 ファイルの展開先（保存場所）指定画面」が表示されます。参照ボタンを押下すると、「図 5.1-4 フォルダ指定画面」が表示されるので、保存先を指定し「OKボタン」を押下します。「図 5.1-3 ファイルの展開先（保存場所）指定画面」の「展開」ボタンを押下します。

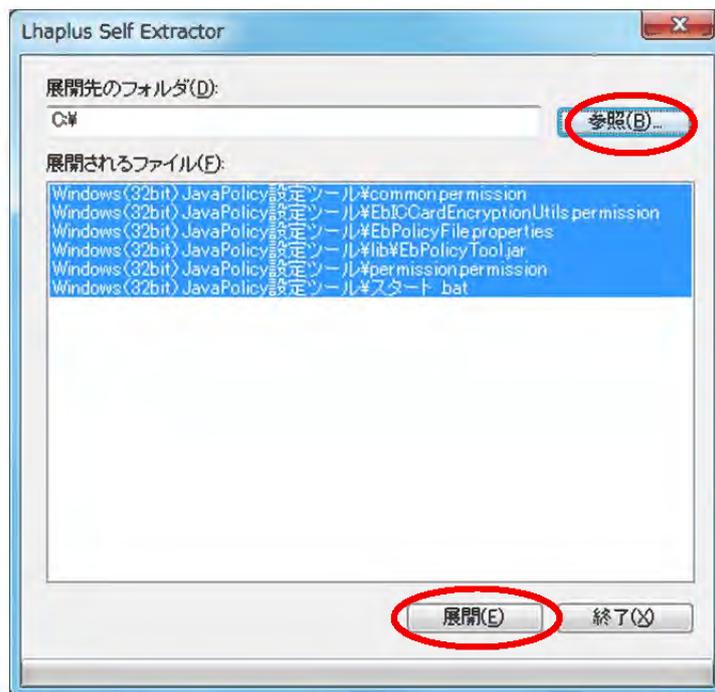


図5.1-3 ファイルの展開先（保存場所）指定画面

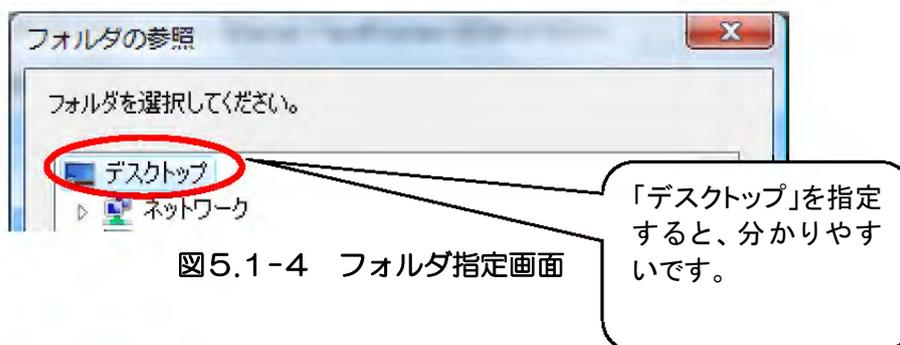


図5.1-4 フォルダ指定画面

- (4) 上記で選択した保存先に、解凍したファイルが作成されます。
Java ポリシー設定ツールはダウンロードしたツールと同じ名称のフォルダが作成されます。



図5.1-5 JavaPolicy 設定ツール フォルダ

5. 2 Java ポリシーの設定

(1) ツールの起動

5.1 で解凍したフォルダの中の「スタート.bat」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックすると「図5.2-2 ユーザーアカウント制御」が表示されます。

ユーザーアカウント制御画面にて「はい」をクリックすると「図5.2-3 スタート.bat 実行画面」が表示されます。

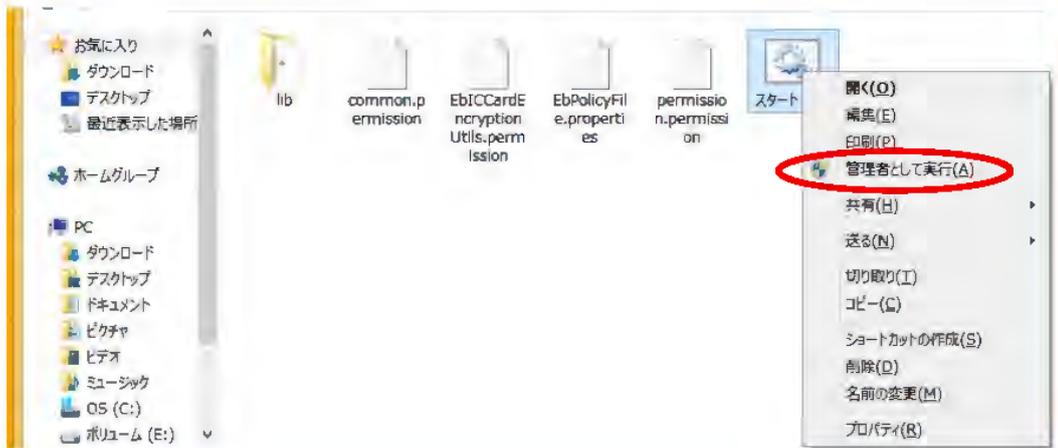


図5.2-1 JavaPolicy 設定ツールフォルダ画面

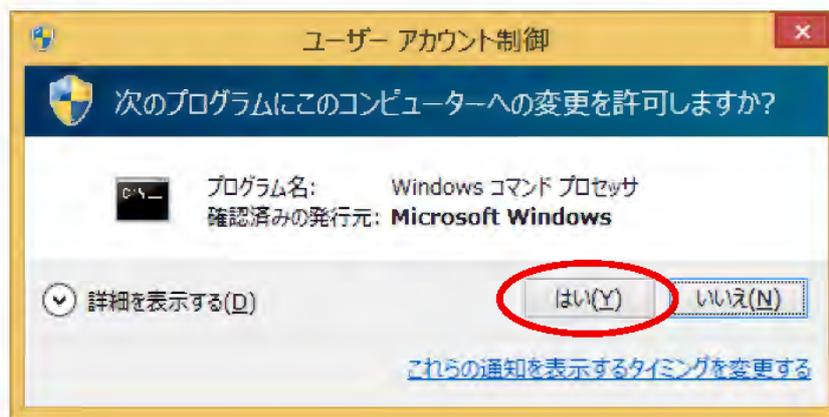


図5.2-2 ユーザーアカウント制御画面

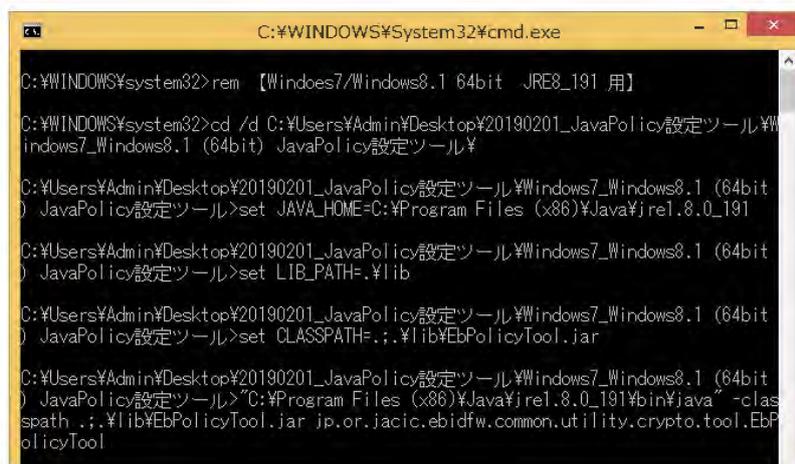


図5.2-3 スタート.bat 実行画面

※ご利用の OS によって、画面が異なる場合があります。

(2) 画面説明



図5.2-4 java.policy ファイル設定ツール画面①

<項目内容>

- ①発注機関名称
設定を追加する発注機関の名称を入力します。
- ②発注機関 URL
追加する発注機関から提示されている URL を入力します。
- ③登録ボタン
入力した名称と URL を用いて、java.policy ファイルに設定を追加します。
- ④終了ボタン
このツールを終了します。
- ⑤ポリシーファイルの参照ボタン
java.policy ファイルの内容を表示します。
- ⑥登録済み発注機関リスト
登録済みの発注機関名称の一覧を表示します。
- ⑦削除ボタン
登録済み発注機関リストで選択した発注機関に関する設定を削除します。

※java.policy ファイル設定ツールを実行する場合は、管理者権限のユーザにて実行して下さい。

※Java のバージョン更新（アップデート）を行った場合は、再度 java.policy ファイル設定ツールを実行する必要があります。

(3) 登録処理

少額物品システムに対する設定を行います。



図5.2-5 java.policy ファイル設定ツール画面②

<操作手順>

- ①発注機関名を入力します。(例：〇〇〇〇市)
- ②発注機関 URL に「https://www.ebs-asp.fwd.ne.jp/CALS/」が表示されていることを確認します。
- ③登録ボタンを押します。
- ④確認画面です。
登録を実行してもよければ「はい」ボタンを押します。

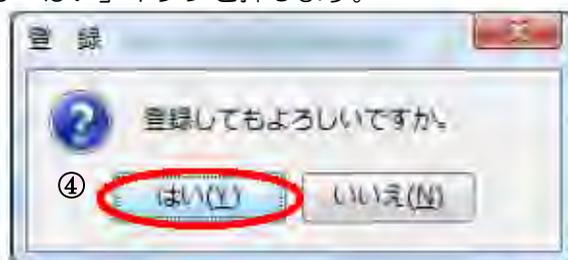


図5.2-6 登録確認画面

- ⑤登録済み発注機関に①で入力した内容（例：〇〇〇〇市）が表示されたら登録完了です。

なお、本ツールにより、java.policy ファイルを変更するたびに自動的にバックアップファイルが作成されます。

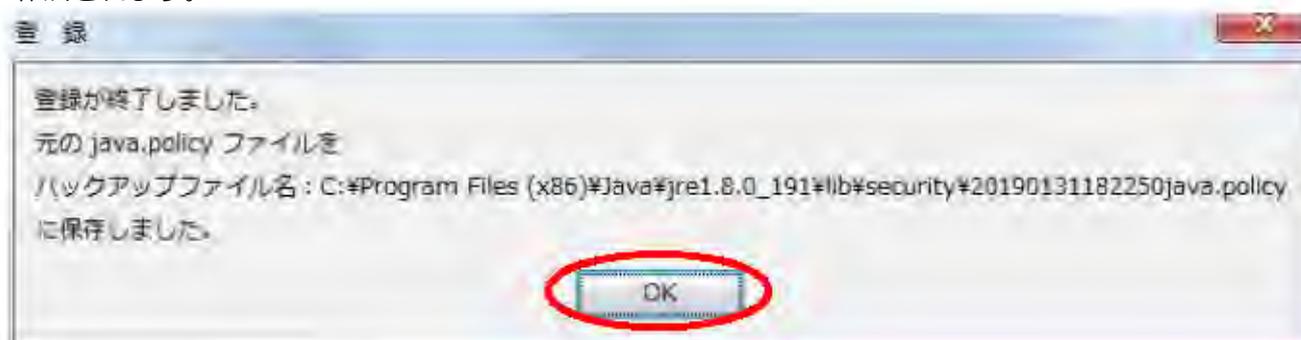


図5.2-7 登録完了画面

注意

上記（3）④で「はい」ボタンをクリックした後、下図のような画面が表示され、登録に失敗した場合、ユーザーアカウント制御機能を無効にし、パソコンを再起動した後、再度、上記（1）ツールの起動から実施してください。

ユーザーアカウント制御機能を無効にする手順は、補足1を参照してください。

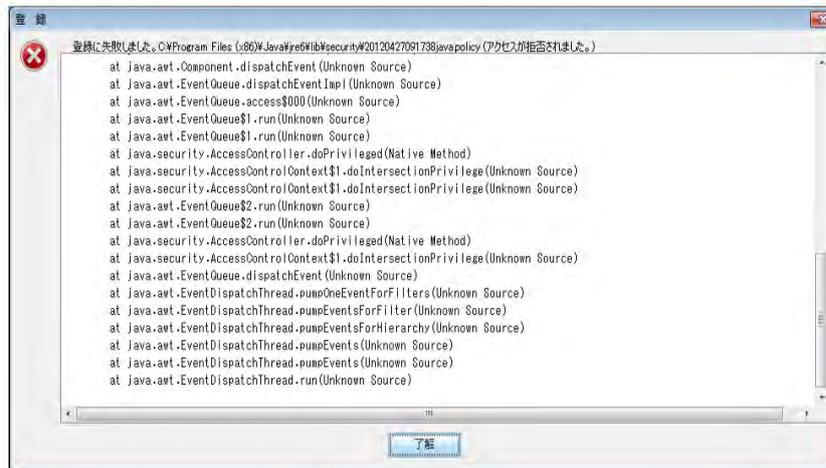


図5.2-8 エラー画面（例）

※Java ポリシーの設定が完了したら、ユーザーアカウント制御機能を元の状態に戻し、パソコンを再起動してください。

補足1 ユーザーアカウント制御機能の無効化

注意

この作業は、Java ポリシーの設定に失敗した場合のみ、行ってください。
Java ポリシーの設定が完了したら、必ず元の状態に戻し、パソコンの再起動を行ってください。

1. Windows 7の場合

(1) 「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」を開きます。

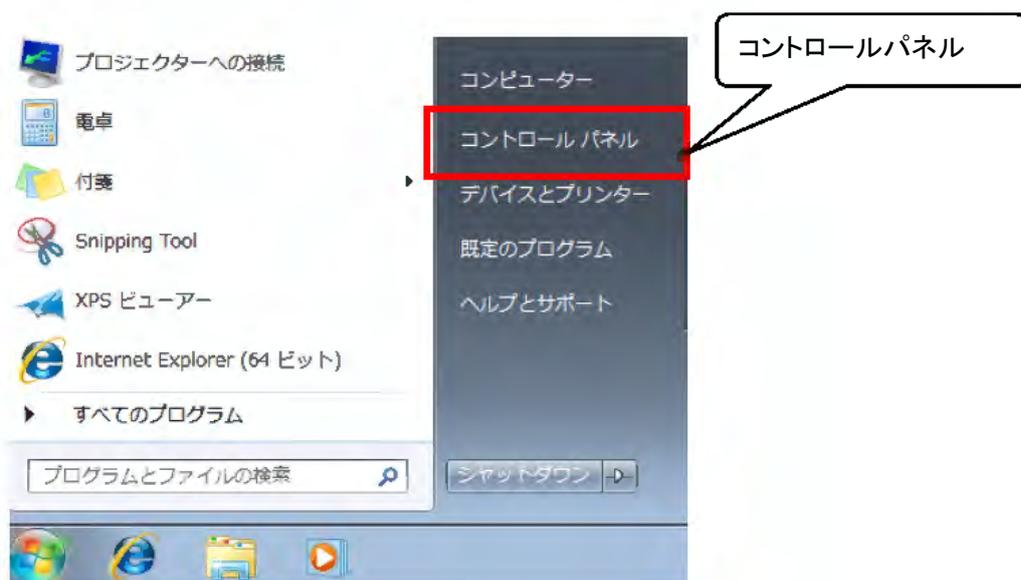


図 補足.1-1 コントロールパネル呼び出し画面

(2) 「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」を開きます。

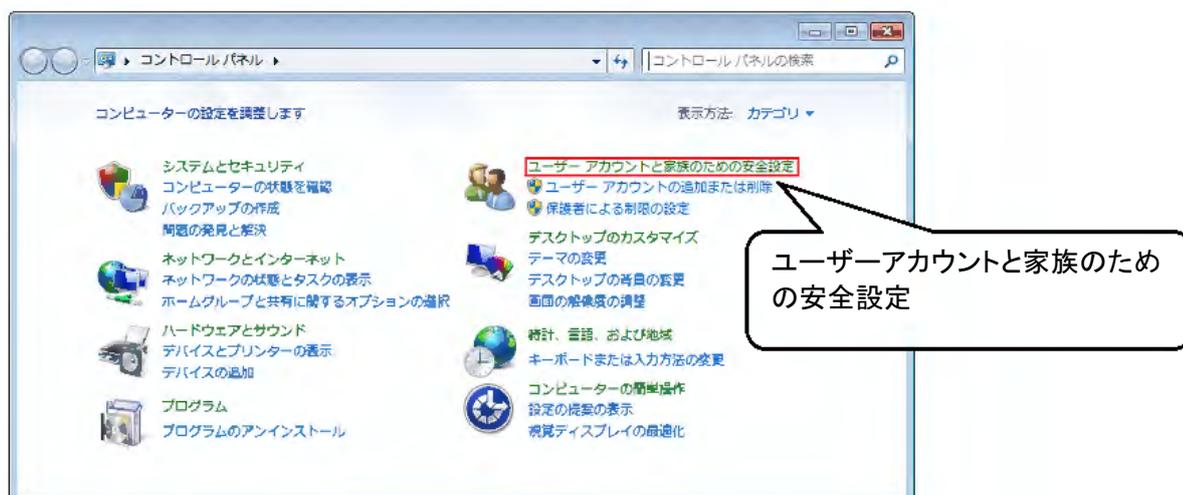


図 補足.1-2 コントロールパネル画面

(3) 「ユーザーアカウント」を開きます。



図 補足.1-3 ユーザーアカウントと家族のための安全設定画面

(4) 「ユーザーアカウント制御設定の変更」を開きます。

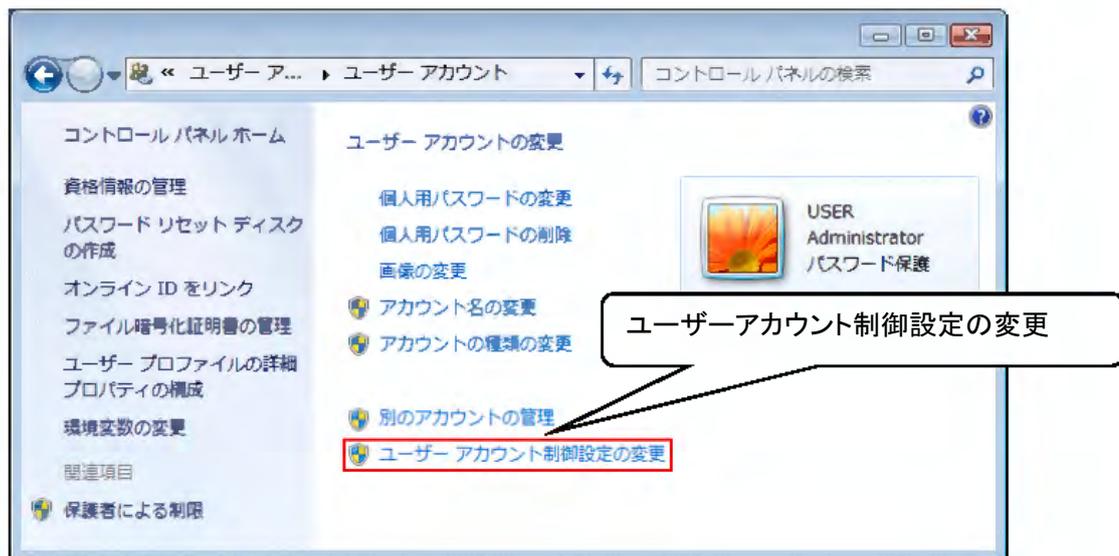


図 補足.1-4 ユーザーアカウント画面

- (5) 「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示されるので、「続行」ボタンをクリックします。
ユーザーアカウント制御の設定画面が表示されるので、ゲージを「通知しない」までスライドさせ、「OK」ボタンをクリックします

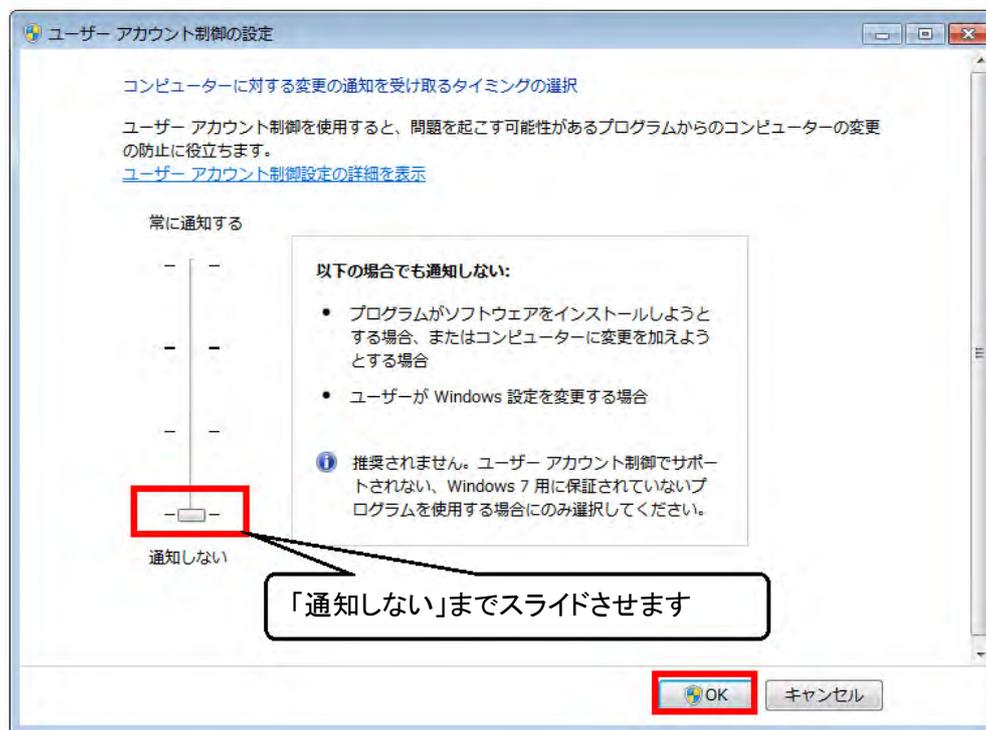


図 補足.1-5 ユーザーアカウント制御の設定画面

- (6) 「OK」ボタンをクリックすると、「ユーザーアカウント制御を無効にするには、コンピュータを再起動する必要があります」とメッセージウィンドウが表示されますので、メッセージをクリックしてパソコンを再起動してください。

2. Windows 8.1 の場合

(1) スタートメニューを右クリックし、「コントロールパネル」を開きます。

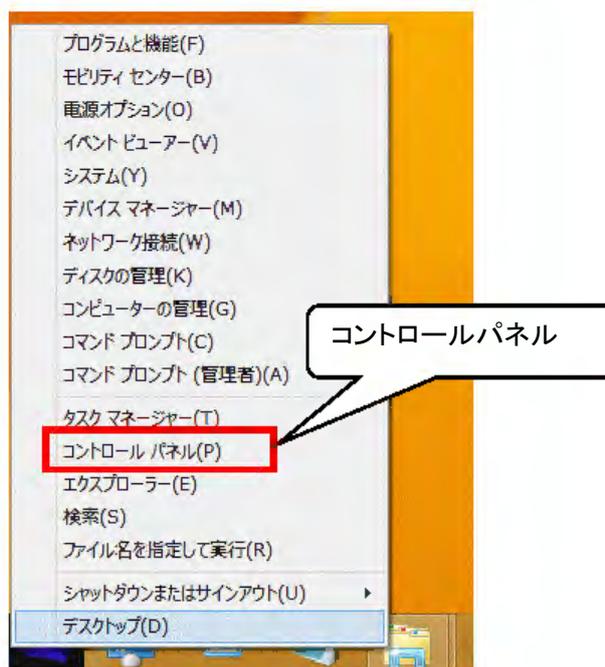


図 補足.2-1 コントロールパネル呼び出し画面

(2) 「ユーザーアカウントとファミリーセーフティ」を開きます。

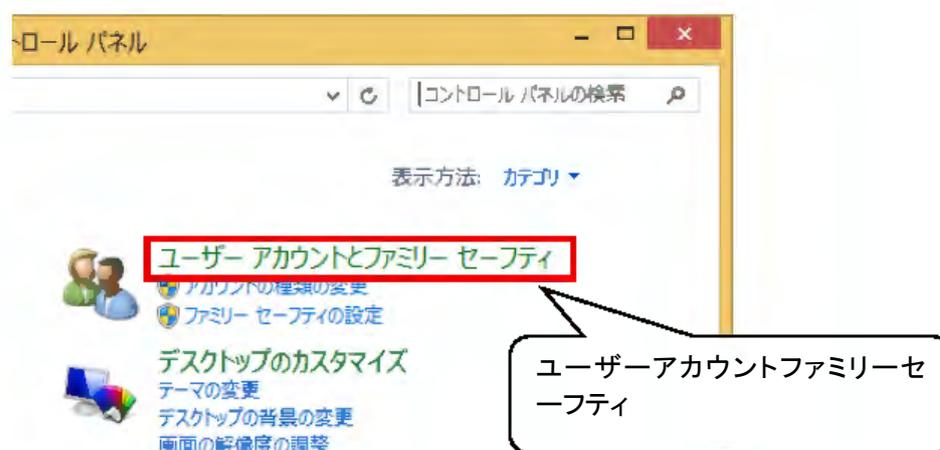


図 補足.2-2 コントロールパネル画面

(3) 「ユーザーアカウント」を開きます。



図 補足.2-3 ユーザーアカウントと家族のための安全設定画面

(4) 「ユーザーアカウント制御設定の変更」を開きます。

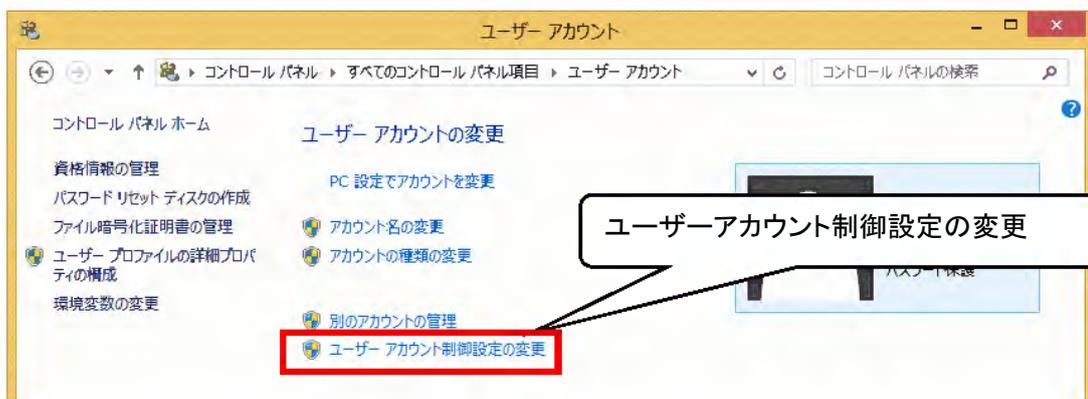


図 補足.2-4 ユーザーアカウント画面

- (5) 「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示されるので、「続行」ボタンをクリックします。
ユーザーアカウント制御の設定画面が表示されるので、ゲージを「通知しない」までスライドさせ、「OK」ボタンをクリックします

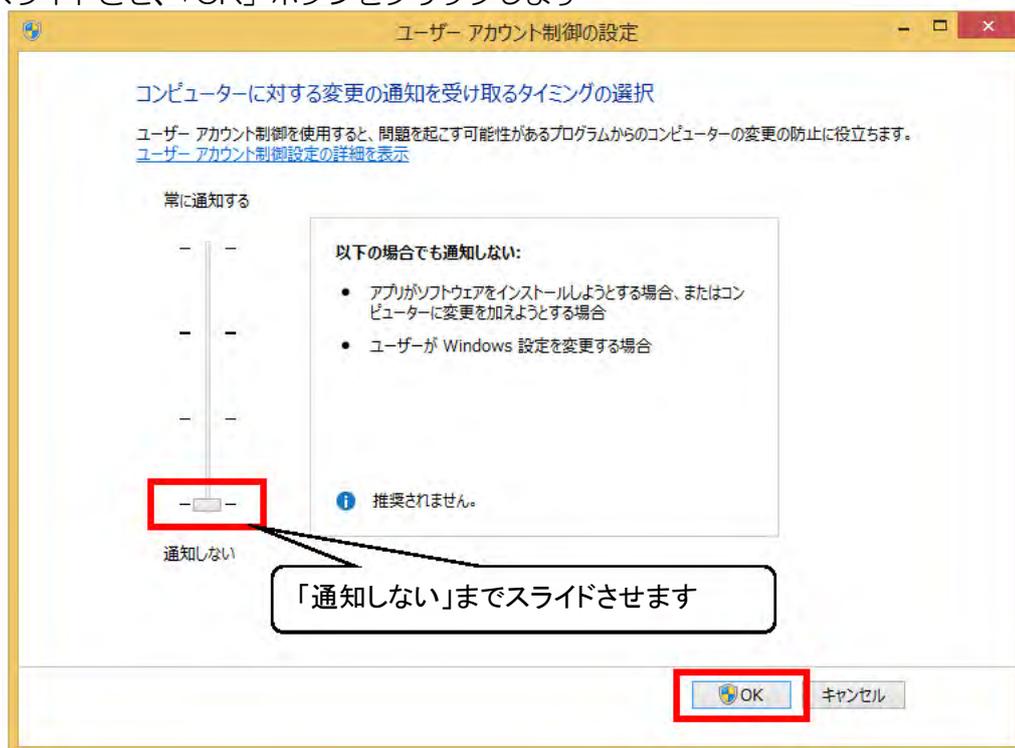


図 補足.2-5 ユーザーアカウント制御の設定画面

- (6) 「OK」ボタンをクリックすると、「ユーザーアカウント制御を無効にするには、コンピュータを再起動する必要があります」とメッセージウィンドウが表示されますので、メッセージをクリックしてパソコンを再起動してください。

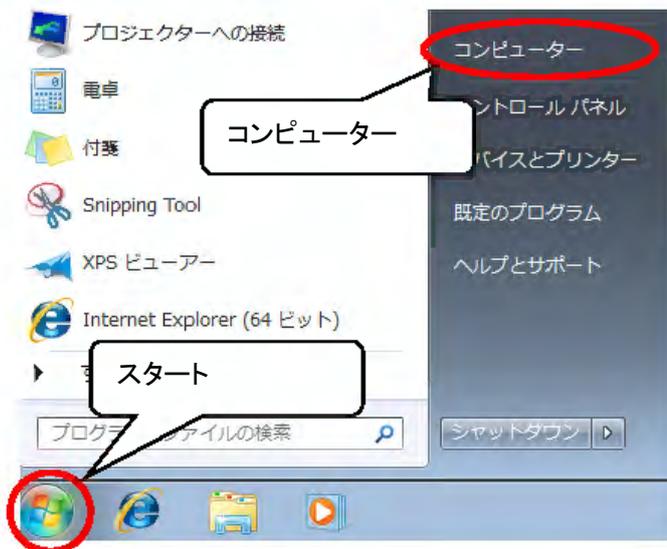
第6章 Java の設定

6.1 Java 環境の設定

インストールした Java が自動で更新されないよう設定を行います。

- (1) Windows 7 の場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「コンピューター」を開きます。
Windows 8.1 の場合は、「スタート」ボタンを右クリックし、「エクスプローラー」を開きます。

• Windows7 の場合



• Windows8.1 の場合

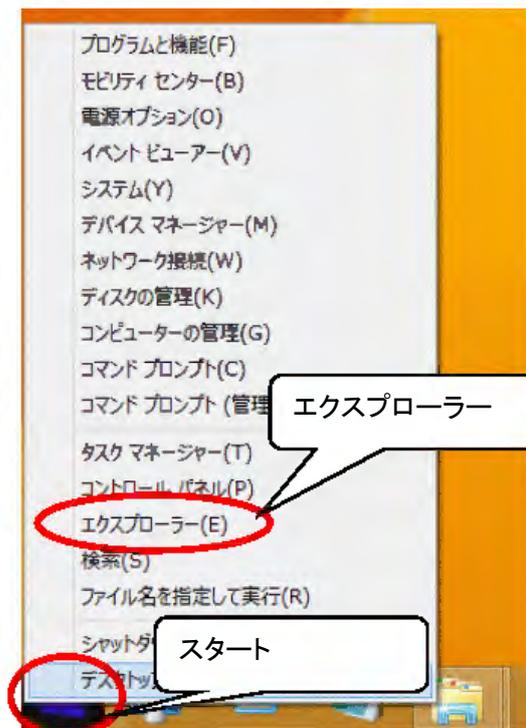


図6.1-1 コンピューター呼び出し画面

- (2) 「ローカルディスク (C:)」を開きます。

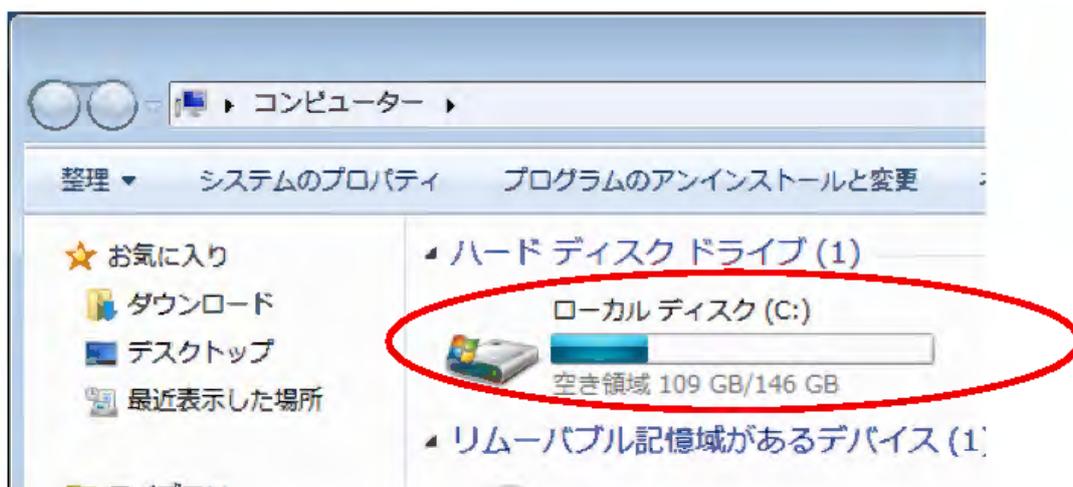


図6.1-2 コンピューター画面

(3) 「Program Files (x86)」フォルダを開きます。



図6.1-3 「Program Files (x86)」フォルダ画面

(4) 「Java」フォルダを開きます。

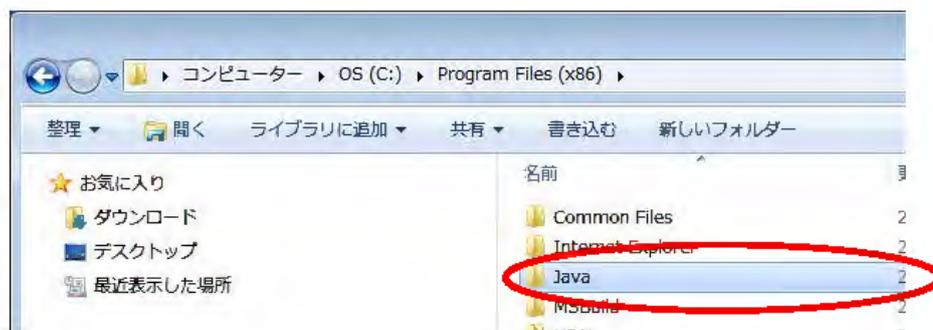


図6.1-4 「Java」フォルダ画面

(5) 「jre1.8.0_XXX」フォルダを開きます。

※ XXXはダウンロードしたJavaのバージョンが表示されます。

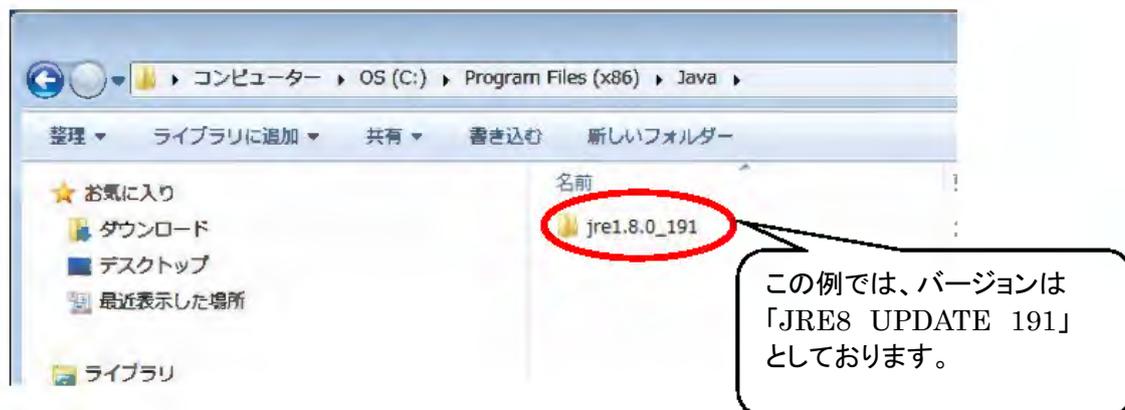


図6.1-5 「jre1.8.0_191」フォルダ画面

(6) 「bin」 フォルダを開きます。

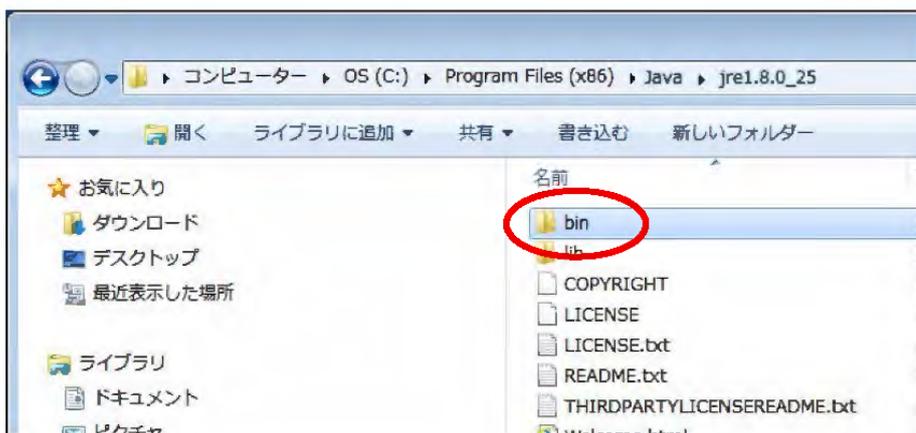


図6.1-6 「bin」フォルダ画面

(7) 「javacpl」または「javacpl.exe」を左クリックしてから、右クリックをして「管理者として実行 (A)」をクリックします。

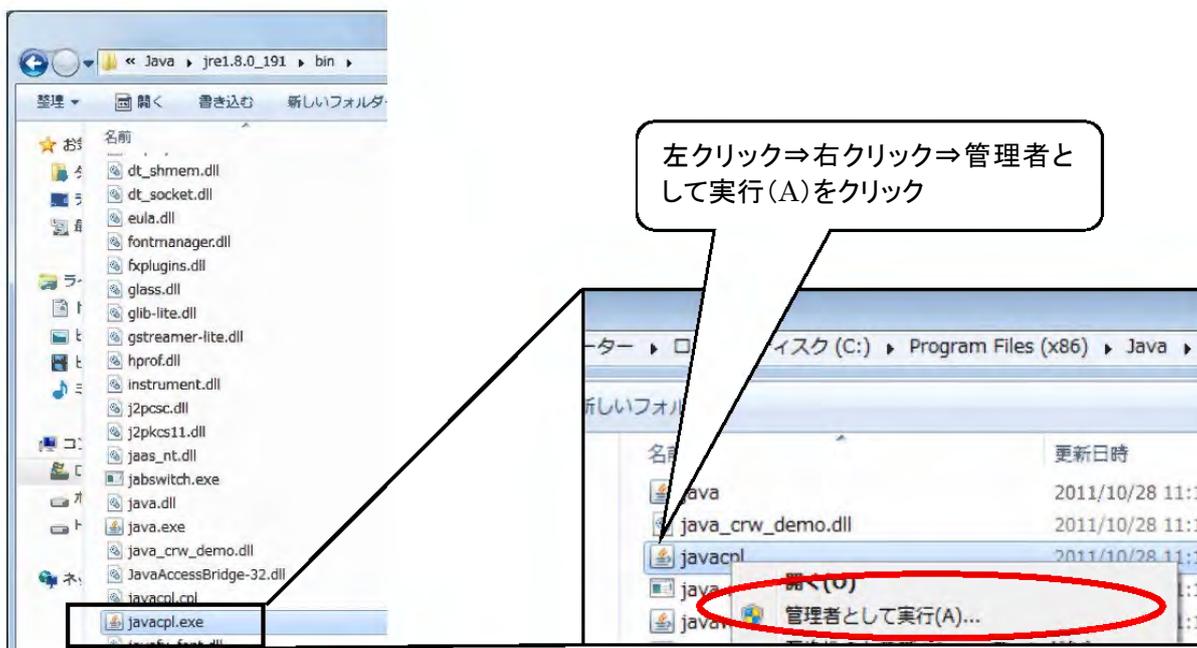


図6.1-7 javacpl または javacpl.exe 画面

- (8) 「次のプログラムにこのコンピューターへの変更を許可しますか?」と表示されますので、「はい」を選択すると、「Java コントロールパネル」が表示されます。「更新」をクリックします。



図6.1-8 Java コントロールパネル①

- (9) 以下の画面が表示されます。「更新を自動的にチェック」を外します。
(既にチェックが外れている場合、以降の操作は不要です。「取消」をクリックして画面を閉じてください。)



図6.1-9 Java コントロールパネル②

- (10) 以下の画面が表示されますので、「チェックしない」を選択します。

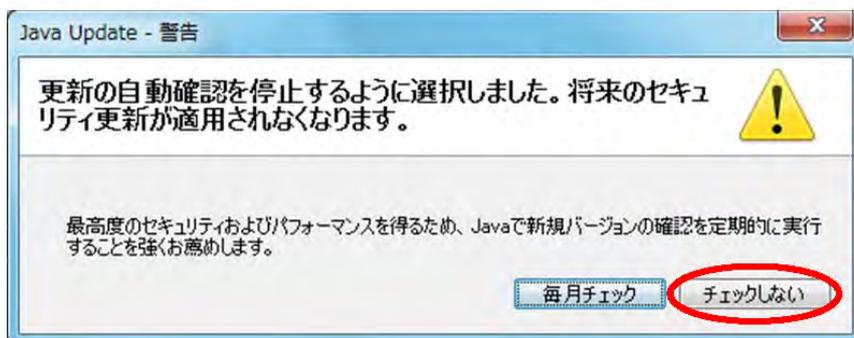


図6.1-10 Java コントロールパネル③

(11) 以下の画面が表示されます。チェックが外れたことを確認します。



図6.1-11 Java コントロールパネル④

6.2 例外サイト・リストの設定

(1) Java コントロールパネルを開きます。「セキュリティ」をクリックします。

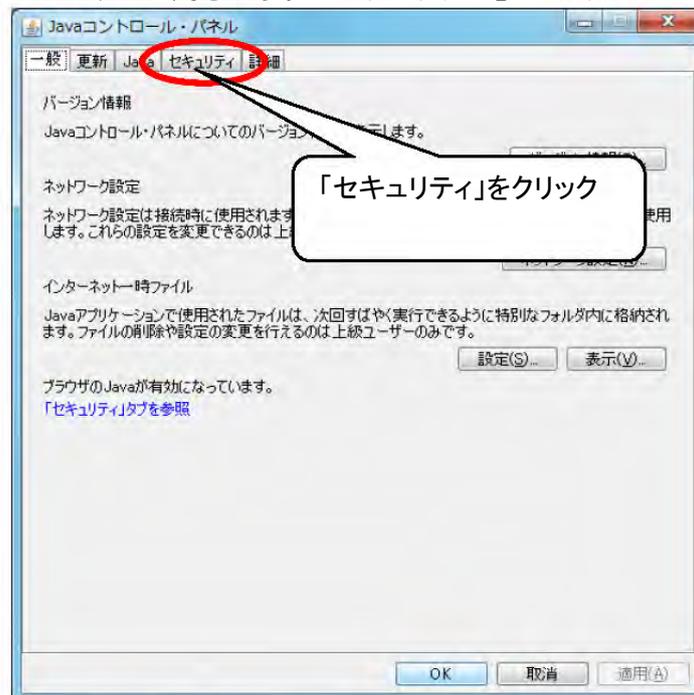


図6.2-1 Java コントロールパネル①

(2) 「サイト・リストの編集」をクリックします。

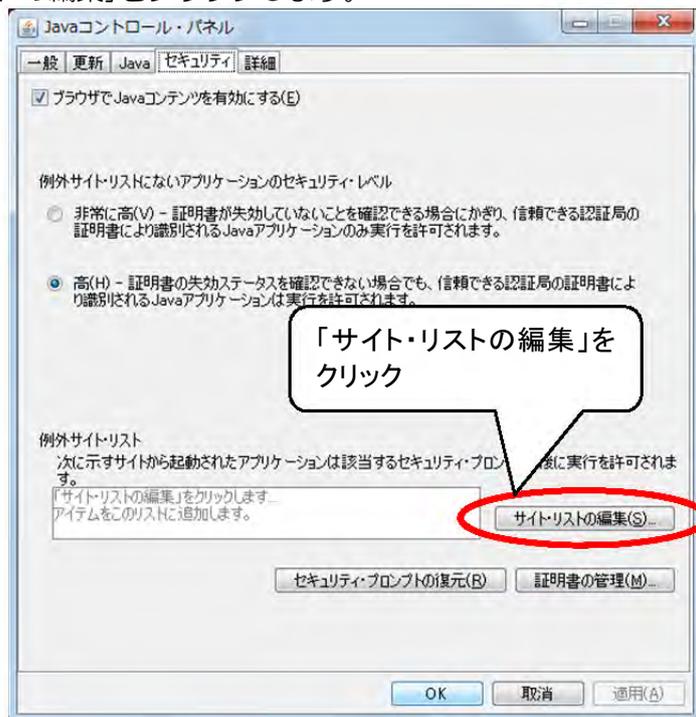


図6.2-2 Java コントロールパネル②

(3) 「追加」ボタンをクリックします。

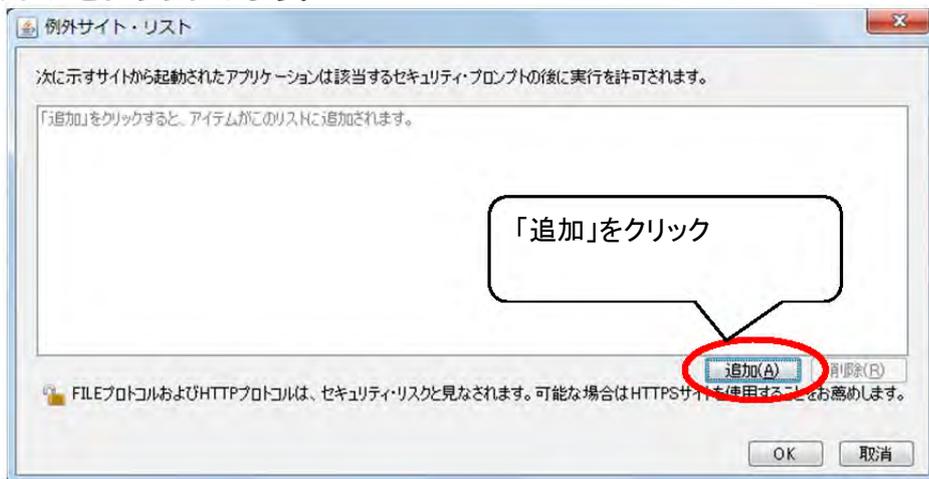


図6.2-3 Java コントロールパネル③

(4) 「場所」欄が表示されます。

Java のフォルダ名およびご利用頂く電子入札システムの URL を登録します。

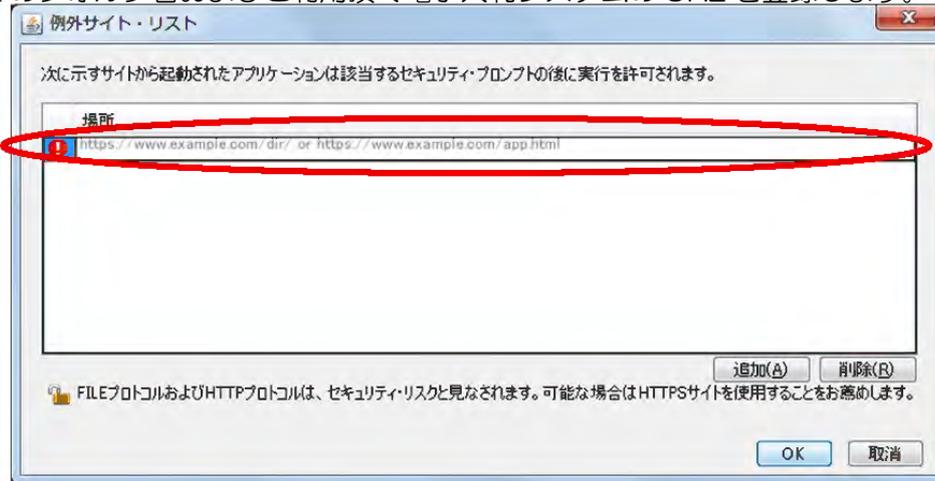


図6.2-4 Java コントロールパネル④

(5) 第5章でダウンロードした「JavaPolicy 設定ツール」フォルダを開きます。
フォルダ内の「例外サイト設定 URL.txt」を開きます。

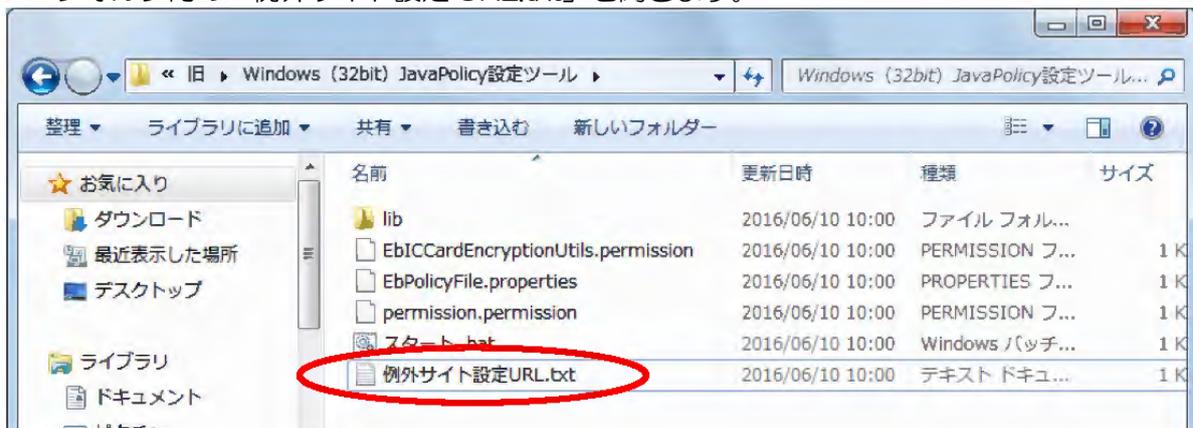


図6.2-5 JavaPolicy 設定ツールフォルダ

(6) 「例外サイト設定 URL.txt」内の URL を1行ずつコピーし「例外サイト・リスト」の「場所」に貼り付け、「追加」ボタンをクリックします。
同じ操作で2つの URL を追加してください。

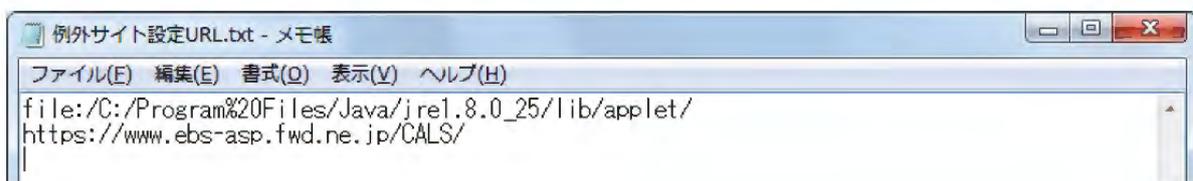


図6.2-6 例外サイト設定 URL

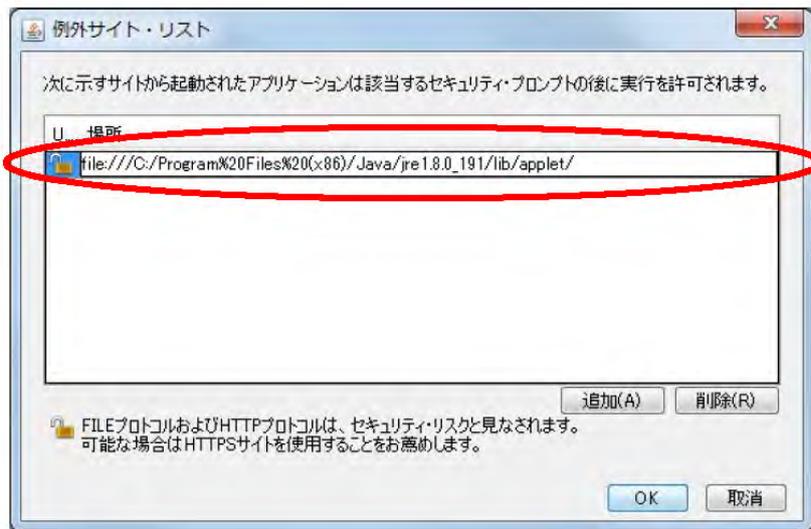


図6.2-7 Java コントロールパネル⑤

※以下のようなセキュリティ警告画面が表示された場合は、「続行」をクリックしてください。

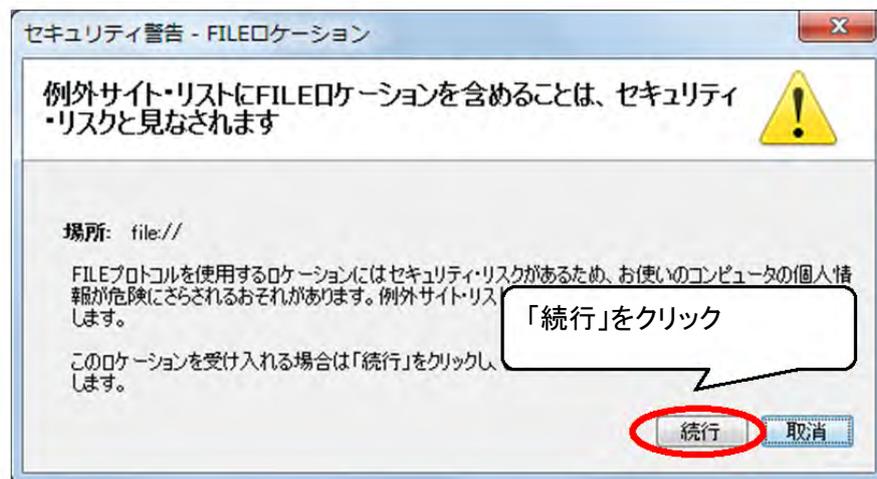


図6.2-8 Java セキュリティ警告

- (7) テキストファイル内の2つの URL が表示されていることを確認します。
「OK」 ボタンをクリックします。

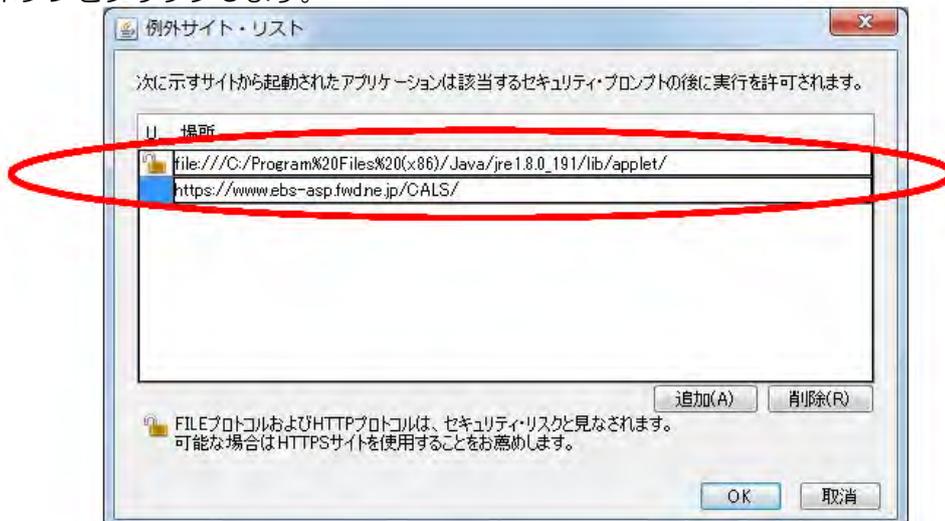


図6.2-9 Java コントロールパネル⑧

- (10) Java コントロールパネル内の「例外サイト・リスト」に入力した URL が表示されていることを確認してください。
確認後、「OK」 ボタンをクリックします。

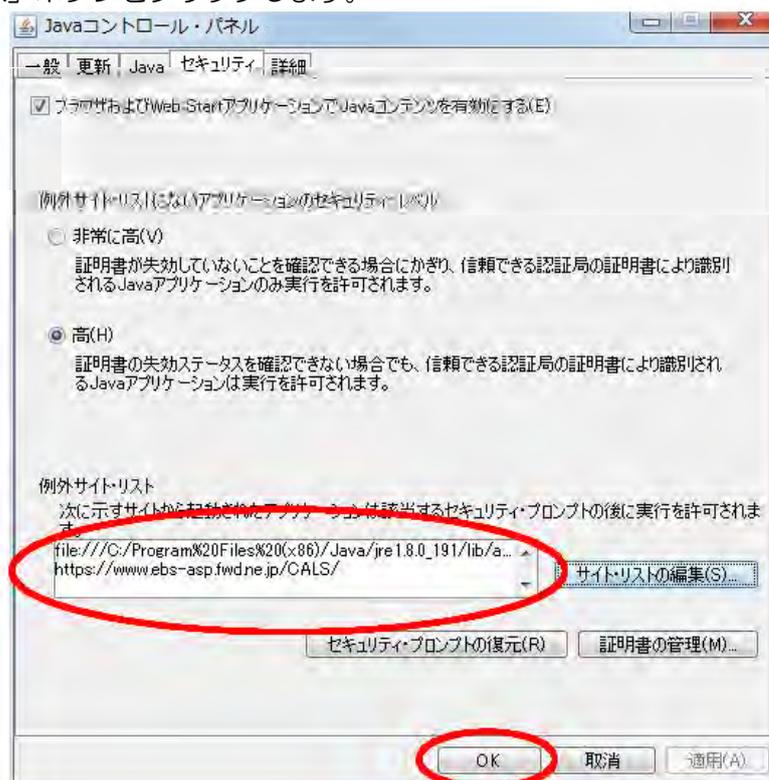


図6.2-10 Java コントロールパネル⑨

以上で Java の設定は完了です。

補足2 Internet Explorer の設定

電子入札システムを使用するには、Internet Explorer の設定も必要となります。
設定を行っていない場合は、下記手順を参照の上、設定をしてください。

• 信頼済みサイトとポップアップブロックの設定

(1) 「Internet Explorer」を起動します。

(2) ツールメニューから「インターネットオプション」①をクリックします。

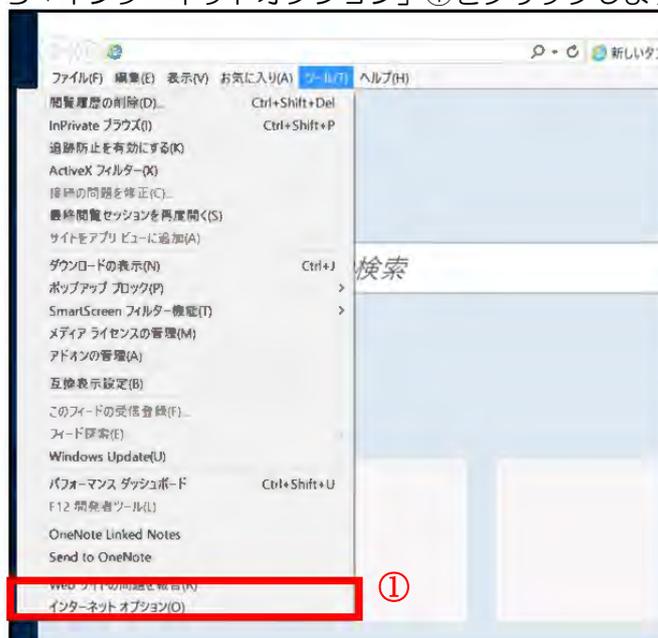


図 補足.1 Internet Explorer 画面

(3) 画面上部の「セキュリティ」タブ①をクリックします。

「信頼済みサイト」②をクリックし選択後、「サイト」ボタン③をクリックします。

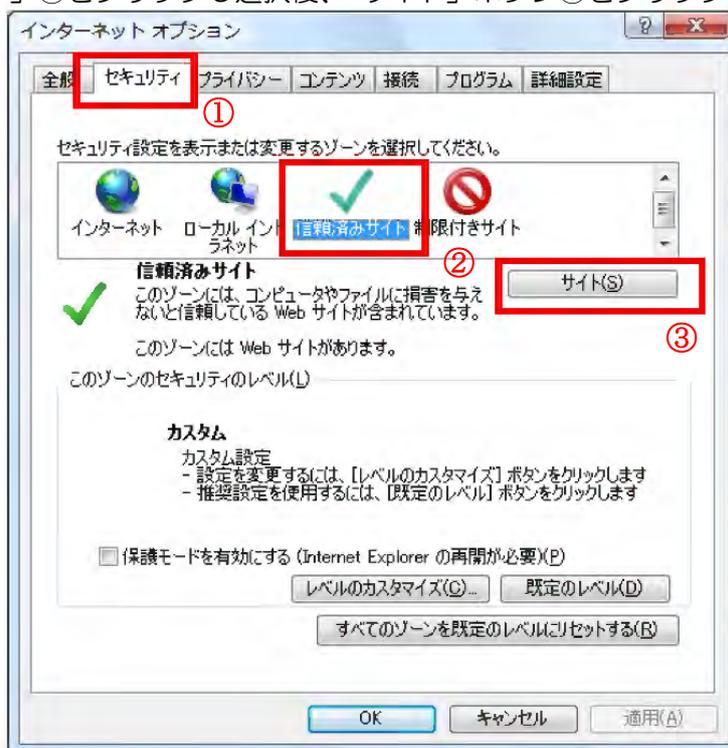


図 補足.2 インターネットオプション画面

(4) 「この Web サイトをゾーンに追加する」の入力欄①に以下の URL を入力し「追加」ボタン②をクリックします。

<https://www.ebs-asp.fwd.ne.jp/>

「Web サイト」欄③に追加した URL が表示されたことを確認し、「閉じる」ボタン④をクリックします。

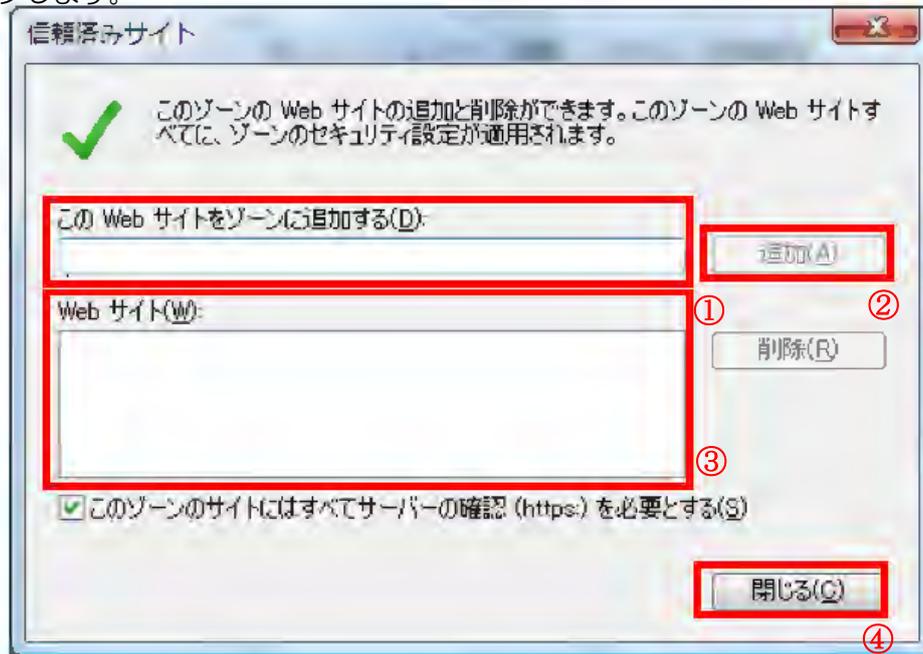


図 補足.3 信頼済みサイト

(5) 「インターネットオプション」画面の「レベルのカスタマイズ」ボタン①をクリックします。

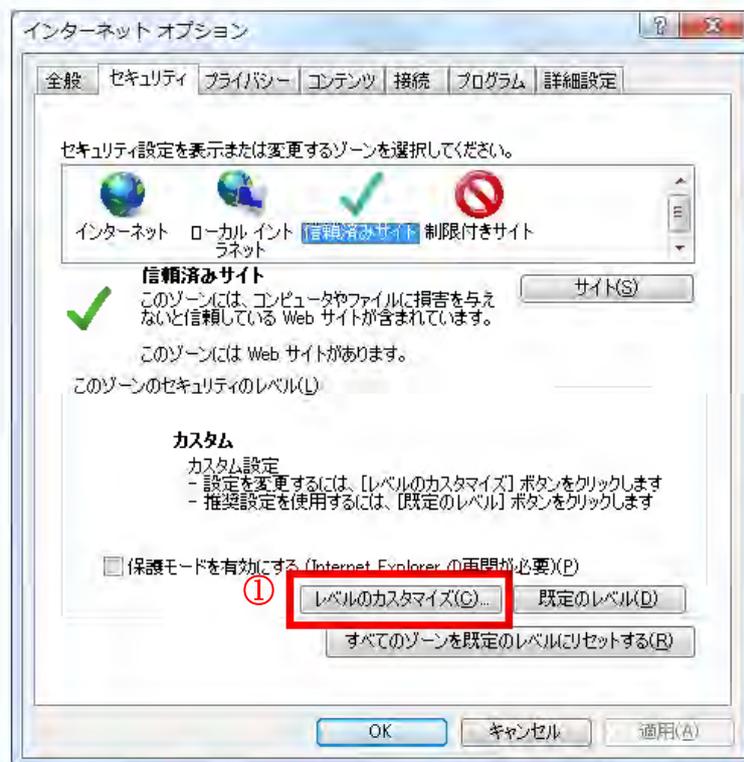


図 補足.4 インターネットオプション画面

- (6) 「ポップアップブロックの使用」①を「無効にする」に変更します。
「OK」ボタン②をクリックします。

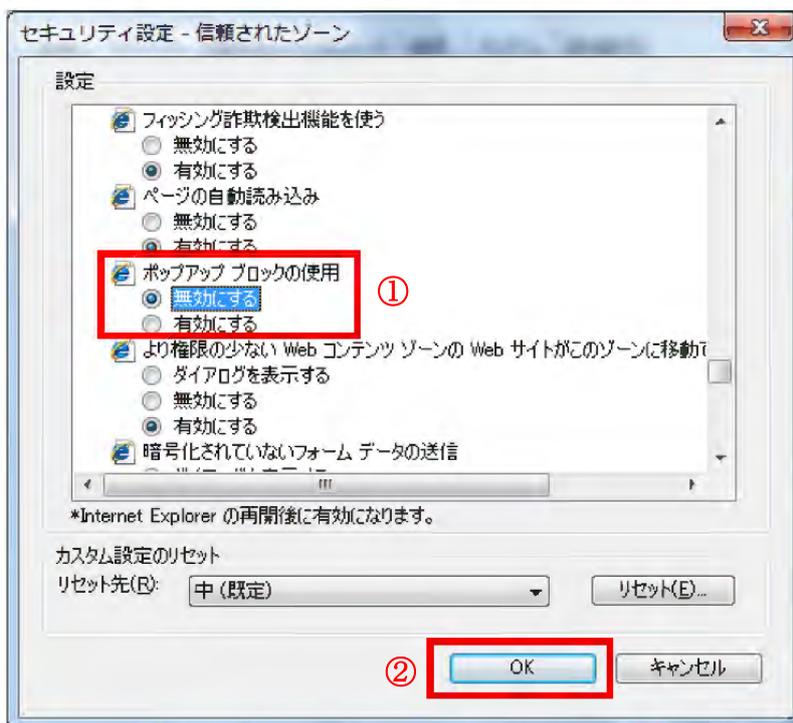


図 補足.5 セキュリティ設定画面

• 互換表示の設定

- (1) 「Internet Explorer」を起動します。
(2) ツールメニューから「インターネットオプション」①をクリックします。

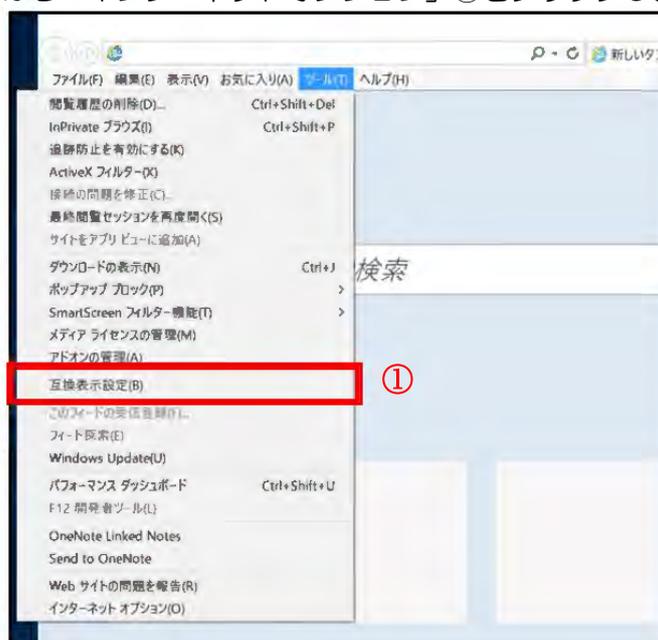


図 補足.6 Internet Explorer 画面

- (3) 「追加する Web サイト」欄①に以下を入力し、「追加」ボタン②をクリックします。
fwd.ne.jp
互換表示に追加した Web サイト」欄③に追加した項目が表示されていることを確認し、「閉じる」ボタン④をクリックします。



図 補足.7 互換表示設定画面

以上で Internet Explorer の設定は完了です。